

風紋

vol.71 2021 / Autumn

鳥取大学広報誌 FU-MON

特集

誰もが輝く キャンパスを 目指して



注目の
研究

化学の力を利用して目には見えない
ナノレベルのものづくりで世界を先駆ける

私たちの
研究室

地域学部地域学科 地域創造コース
村田研究室

トリカツ!

体育会弓道部
心と技を磨き、弓道の真髄を目指す!

新任教員
紹介

地域学部地域学科 / 医学部医学科

教養の場

教養科目「発達心理学」

広報誌「風紋」は、新型コロナウイルス感染防止対策を十分に行った上で取材・撮影をしています。
掲載写真は全て撮影時のみマスクを外しています。

ダイバーシティ
キャンパス推進室
Webサイトは
こちら



性別や年齢はもちろん、国籍、人種、宗教、障がいなど、さまざまな多様性を享受する「ダイバーシティ(多様性)」という考え方が、日本でも次第に浸透しています。多様な個性・価値観を尊重し、偏見や差別のない環境づくりは、本学においても大きな目標。それに尽力しているのが、「ダイバーシティキャンパス推進室」です。今特集ではその理念や取り組みについて、推進室の学生スタッフがご紹介していきます！

特集 \ 学生スタッフがご紹介! /

誰もが輝く キャンパスを 目指して

多様な個性を尊重するために

海外や県内外から多種多様な人々が集い、お互いの生き方や価値観を主張したり理解し合いながら、私たちは日々鳥大キャンパスで過ごしています。しかしその中で、さまざまな理由から自分の力を発揮できなかったり、偏見や差別を受けたら、何かしら過ごしづらさを感じている人がいます。その問題をくみ上げ、悩みや不安の解消へと導いてくれるのが、「ダイバーシティキャンパス推進室」(以下、推進室)です。

2011年10月に「男女共同参画推進室」として開設され、当初は女性が社会で活躍するための支援を中心に取り組んでいました。「そうした中、性的マイノリティや国籍、人種、宗教といった、もっと広汎な視野でキャンパスづくりを考える意識が高まってきたことから、次第に『男女』では活動内容と合わなくなり、2019年4月に名称を変更したので」と、細井由彦室長は推進室の歩みを教えてくださいました。「講演会等でLGBT(※)当事者の話を聞くにつれ、鳥大でも性的マイノリティへの支援が必要だと強く感じました」と、長谷順子コーディネーターも言葉を続けます。

とはいえ、マイノリティに対する理解を深めるのは簡単ではありません。

「キャンパス内の環境を少し変えてほしい」とお願いしても、「たった1人のためにする必要があるのでですか?」という言葉が返ってきたことがあります。当事者は困っているのに」と長谷コーディネーター。そこで推進室では、講師に性的マイノリティの当事者を招き、ダイバーシティセミナーを開催しています。当事者の生の体験を聞くのが一番よく分かるし、心に響くからだそうです。

新風吹き込む学生の力!

これまでの取り組みは、室員の先生方主体で行っていました。また、学生向けの支援よりも、教職員のワークライフバランスに関するものが多かったとか。しかし、キャンパス構成員の大半は学生。学生の意識を変え、主体的に動いてもらうことで学内も変わるのではないかと考えたそうです。こうして、推進室に「学生スタッフ」が誕生しました。「学生スタッフが加わったのは、推進室最大の変化。取り組みが双方向になってきていることが素晴らしいと感じています」と、長谷コーディネーターは私たちを歓迎してくれました。

それでは次のページからは、学生スタッフの活躍を含め、推進室が取り組んでいる数々の活動を見ていきましょう!

ながたに じゅんこ
長谷 順子 さん
ダイバーシティキャンパス
推進室コーディネーター



ふじわら はなみ
藤原 花実 さん
地域学部地域学科 2年
学生スタッフ



みよし りん
三好 凜 さん
地域学部地域学科 2年
学生スタッフ



ほそい よしひこ
細井 由彦 理事
ダイバーシティキャンパス
推進室長



2 啓発セミナーの開催

多様な生き方や価値観、人生設計やキャリアプランの考え方、子育てや介護といったライフイベントのことなど、さまざまなテーマでセミナーを実施しています。近年はeラーニングシステムやオンライン配信を活用、受講しやすくなったと評判です!



3 ダイバーシティについての講義

ダイバーシティの定義や推進室の取り組み、男女共同社会に関する法律・制度など、私たち学生が今後社会で活躍していくために必要な知識を、全学共通教育の大学入門ゼミ*で分かりやすく教えてくれます。

*一部の学科のみ



役知見を身につけて
ダイバーシティ
推進室の取り組みを
学びたい

いであやか
井手 綾花さん
地域学部地域学科 2年
学生スタッフ

4 困ったら相談窓口へ

出産・育児や介護等のライフイベントと仕事を両立する上での不安や悩みはもちろん、性自認・性的指向など性的マイノリティに関する相談もできます。キャンパス内の誰でも利用可能です!



① 相談窓口について

要事前
予約

ダイバーシティキャンパス推進室
(地域学部棟 4階)内
受付・相談時間
月～金(平日)9:00～16:00

☎ 0857-31-5769 ✉ diversity@ml.adm.tottori-u.ac.jp

近年は男性教員の
育休取得の相談も
増えているそうですよ



ダイバーシティ キャンパス推進室の 取り組み内容

誰もが自分らしく生き、活躍できるダイバーシティキャンパスを目指して、推進室では多様な取り組みを行っています。興味のあるもの、利用したいものがあれば、ぜひ一歩踏み出してみてください。

ひとつひとつ
みていきましょう!



1 女子学生のための企業見学会



ダイキン工業

女子学生のキャリアデザイン支援の一環として、女性技術者・研究者にスポットを当て、県内外の企業を見学します。実際に働いている女性社員から志望動機や仕事のやりがい、結婚・出産、子育てと仕事との両立、キャリア形成などについて直接話を伺うことができる絶好の機会!自身の将来像をより具体的に考えられるようになります。

山陰放送



今までの訪問先

花王株式会社、小野薬品工業株式会社、オムロン株式会社、小林製薬株式会社、富士通株式会社、大江ノ郷自然牧場有限会社ひよこカンパニー、寿製菓株式会社、大山乳業農業協同組合、株式会社明治製作所、等

参加学生の声

子供を産んでからのことや働く意識について具体的に聞くことができた

実際に働いておられる女性研究者の方々の話を聞いて、自分の考えていた将来像がガラリと変わる経験となった

女性が働く上でどのような問題があるかを改めて身近なものとして考えることができた

女性から第一線で活躍中の貴重な声を聞ける!

やまもと りね
山本 梨寧さん
地域学部地域学科 2年
学生スタッフ



7 学生スタッフの取り組み

鳥大の構成員である私たち学生から動き出すことでキャンパスが変わるのではないかと、昨年度から始まった新しい活動です。現在スタッフは5名。ダイバーシティについて知識を深めながら、いろいろな人の話を聞き、学生の視点で課題を取り上げ、「誰もが過ごしやすいキャンパス」につながるよう頑張っています！

2020年度のテーマ「イスラム教を知ろう」

報道などから過激派の活動が強く印象に残っているのですが、実は「イスラム」は「平和」という意味で、イスラム教は平和を重んじる宗教です。礼拝や服装、ハラール*や食事の決まりのことなど知らないことがたくさんありますが、「知る」ことで差別や偏見、思い込みをなくそうと、鳥大のeラーニングシステム「manaba」を活用して、昨年度の冬にオンデマンドセミナーを開催しました。

3名のムスリムの留学生の協力を得て、イスラム教について話していただきました。その中で、食堂にハラール認証を受けた肉を使ったメニューがなく困っていると知り、驚きました。するとセミナー後、受講された職員の方の働きかけで食堂にハラールメニューが復活、さらに新メニューまでできたんです！小さな一歩ですが、新しい変化が起こったことがとてもうれしかったです。

※ハラール：イスラム教の教えに則って許されるもの



新ハラールメニューのグリーンカレーとても美味しいです！

マリナさん
地域学部地域学科 4年
マレーシア出身



セミナー参加者の声

ムスリムの方の生の声を聴くことができたので、理解が深まりました。

イスラム教の約束事を異質に捉えることがなくなりました。

日本人だけが住みやすい環境のままでは、いろんな面で発展につながらないと感じました。

皆さんの声を参考に活動しています！



ますます広がるダイバーシティ
まずは意識改革から

推進室は、この他にもいろいろな啓発活動やサポートを行っています。また学生スタッフは、今年度「生理」をテーマにした活動を展開中。アンケート調査をしたところ、なんと350名以上の女子学生・教職員の方から回答が。生理時の体調不良や通院、経済的負担などについて多数ご意見を頂いた中で、これらを基に生理の時も安心して過ごせるような仕組みを実践しようと考えています。

さて、男女共同参画からダイバーシティへと、より広汎な捉え方に変化している社会ですが、改めて浮き彫りになっているのは、男性の目線・意見を中心に物事が進みがちという現実。細井室長、長谷コーディネーターは、「女性の悩みや苦勞に気付いていない男性がまだまだいます。それに気付いてもらうようにするのが推進室の役割。女性への支援も引き続きしっかり対応したい」と話されました。皆さんも、まずは身近な課題からダイバーシティについて考え、できることから始めてみてください。

5 共生環境づくり

多様なジェンダーに配慮された「オールジェンダートイレ」が、鳥取キャンパスに2カ所、米子キャンパスに1カ所設置されています。また推進室内にある「休憩室」は、妊娠・産後等で気分のすぐれないときや搾乳などに利用できます。誰もが過ごしやすいキャンパスってステキですね！



みんなにやさしいキャンパスへ！



6 教職員に向けた取り組み

職種や役職、勤務形態、性別などにかかわらず、キャンパス内に勤務する教職員の皆さんに対してさまざまなサポートを行って、「働きやすさ」を応援しています。

研究支援員制度

出産・育児、介護等により研究活動の時間を十分に確保できない研究者に、「研究支援員」を配置し、キャリア形成・継続を支援します。

ライフイベント支援

結婚や妊娠・出産、育児や介護等、さまざまなライフイベントで利用できる休業や勤務免除、短時間勤務といった各種制度の情報提供・取得の支援を行っています。

「とりりんサマースクール」の開催

教職員の子どもの対象とした夏期学童保育。鳥大ならではの工作や実験、普段はなかなか入れない学内施設の見学などができ、子どもたちの笑顔があふれます。

とりりんサマースクールの様子



仕事と家庭でもっと大事にしたい！

研究支援員制度利用者の声

仕事時間が短縮され、身体的な疲労を抑えることができ、ストレスも軽減した

研究支援員に実験補助をしていただき、子供達の急病時などにスムーズに対応でき、体力的にも精神的にも大変助かった

研究支援員が研究に係る仕事をかなり支援してくださったので、学生の指導等の時間を得ることができた

注目の研究

化学の力を利用して 目には見えないナノレベルの ものづくりで世界を先駆ける



いなば ひろし
稲葉 央 准教授
工学部化学バイオ系学科
専門 タンパク質/ペプチド/バイオ
マテリアル/細胞機能制御
趣味 レコード鑑賞/子どもと遊ぶ

小さな細胞の、さらにその中に広がるとてつもなく小さな世界には、無限の可能性が広がっています。私たちは化学的なアプローチによって、まだ誰も成しえたことのないナノレベルのものづくりに挑戦しています。

世界で初めて極小の チューブ内部に分子を導入

目に見えないくらい小さなチューブの中に、さまざまな物質を詰めることができる——。想像しただけでワクワクしませんか。私たちの体を構成する細胞の中には、球体やシート、ドーナツ状などいろいろな形状のタンパク質が存在しており、ナノチューブ(微小管)もその一つです。微小管の内径は15ナノメートル[注1]程度で、髪の毛の5千分の1ほどという細さ。そのナノサイズの微小管の中に、世界で初めて人工的にナノサイズの物質を導入することに成功しました。

微小管の構造モデルを手掛かりに、内部に結合するペプチド[注2]をつくり、そのペプチドにタンパク質や金属などのナノマテリアル[注3]を連結させることで、微小管の中にさまざまなものを入れることが可能になりました(図1)。

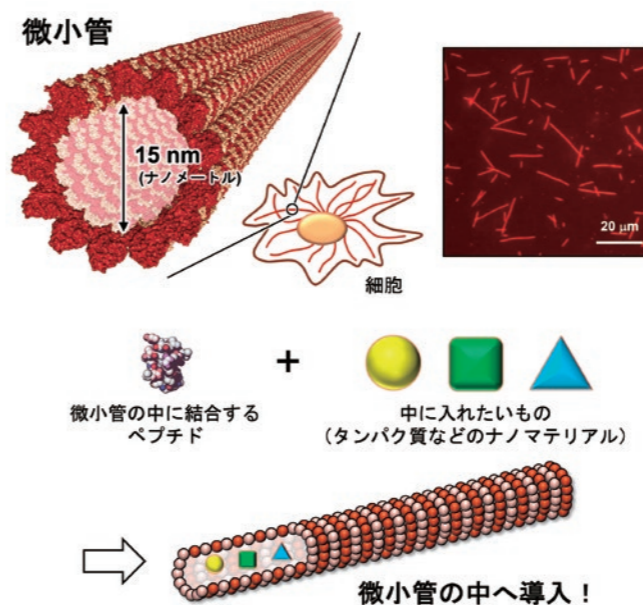


図1 ペプチドを用いた微小管の中へのナノマテリアル導入

ナノレベルのものづくりは、部品はものすごく小さいですが、自分で好きなように設計できるプラモデルをつくるのと同じような感覚です。実際、タンパク質の模型を使ってどこがどう結合するかを考えることもあります。しかし、目には見えないサイズのものを扱っているため、導入できたことを確認するのも一筋縄ではいきません。最新の顕微鏡や化学的な手法を駆使して解析を進め、微小管内部に物質が入っていることを証明します。

細胞の機能制御や ナノマシンとしての応用に期待

微小管内部に物質を入れると、どんなことが起きるでしょうか。これまでの研究で、微小管内部にタンパク質が内包されることで、従来よりも構造が安定化して壊れにくくなり、硬さや長さ、運動速度が上昇することが分かりました(図2)。このように、微小管内部にさまざまなものを入れて、その入れたものによって微小管にどのような変化が起き、またどのような性質を付

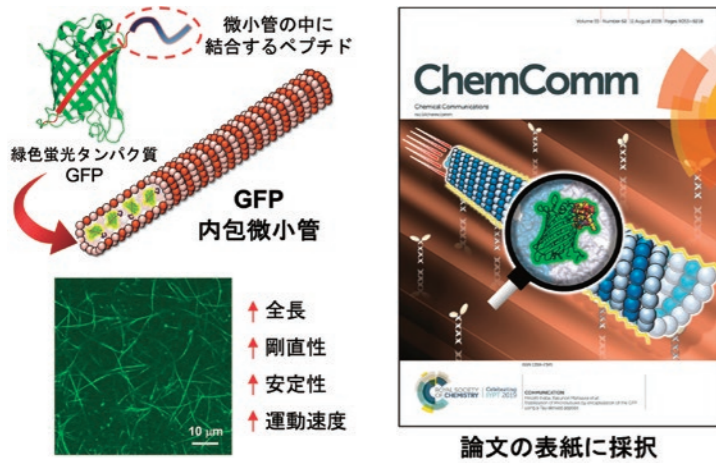


図2 緑色蛍光タンパク質の内包による微小管の高機能化

加させることができたのかを一つ一つ明らかにしています。私たちの研究室でつくったものは、細胞の機能制御を試みる細胞応用や、微小管をナノマシン[注4]として利用する材料応用の分野での活用が検討されています。

微小管は、細胞の中の分子が運動するためのレールという、重要な役目を担っています。細胞内で微小管の物性を変えることができれば、細胞の形状や運動、成長など、細胞の運命を操作できるかもしれません。細胞応用では、本学医学部との共同研究で、例えばある物質を内包させた微小管を細胞内に入れることで細胞の動きを抑制したり、特定の光を当てた時にのみその細胞の構造を変化させたりすることを目指し、科学的な解析を進めています。

また、微小管の中にコバルトと白金の合金を入れることで、磁石に反応する微小管をつくることができます(図3)。材料応用では、北海道大学との共同研究で、こうした磁石に反応性のある微小管などを利用して、将来、体内の目的の場所まで薬を輸送するようなナノマシンが実現できるのではと考えています。例えば、抗がん剤を入れた微小管を磁石によってがん細胞まで移動させ、がん細胞内部のみで薬の効果を発揮させることでよりピンポイントに、

他の細胞への影響も少なく、安全な治療を行うことが可能になります。

ナノレベルの ものづくりを楽しむ

私たちは「ナノレベルのものづくりのスペシャリスト」として、微小管の中にいろいろなものを入れてみる、ということに注力しています。そして、新しいものができる結果、多種多様な分野へと可能性が広がっていくことが期待されます。

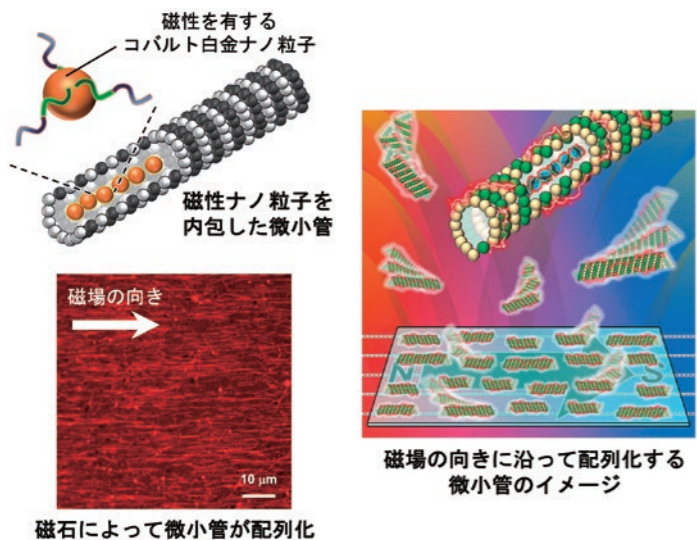


図3 磁性ナノ粒子の内包による微小管の磁場に応答した配列化

得られた知見が応用につながればこれ以上のことはありませんが、一方で純粹に化学的な面白さを重視し、新規構造体の開発や新しい現象の発見を目指しています。ナノメートルの世界でどんなことが起きているのか、想像しながら試行錯誤を繰り返して、ゼロから新たなものを生み出していく。これから学生たちと一緒に、まだ誰もやっただけがないナノレベルのものづくりを楽しんでいきたいと考えています。

[注1] ナノメートル
10億分の1メートル
[注2] ペプチド
アミノ酸が繋がってできた分子。アミノ酸の配列によって構造や機能が異なる。
[注3] ナノマテリアル
100nm(ナノメートル)を下回る、とても小さく小さな物質のこと。
[注4] ナノマシン
ナノサイズで作られた機械やロボットのことで、科学技術の向上により、ナノサイズのモーターや歯車などが試作されており、将来的にナノサイズでの機械の開発も可能とされている。

暮らしの場に飛び込み、住む人の立場になって 地域のこれからを考えています



もりもと りゅうや
森本 龍哉さん

地域学部地域学科 地域創造コース4年



研究テーマ

本について語り合う空間
読書会に求めるものとは

鳥取市内の本屋で月1回開かれて
いる「読書会」に参加しています。読
書会では、同じ本の同じ章を読んだ
感想を参加者同士で語り合います。
読書は1人で楽しむものだと思ってい
ましたが、読書会に参加して「本を読
む」という行為のまた違う魅力に触れ
ることができました。同じところを読ん
でも、印象に残る文章やそこから感じ
ることは人それぞれ違って、感想
を聞くだけでその人のことを少し深く
知れたような気がしました。その読書
会は30年以上続いていて、長年参加
している人や突然ふっと訪れた人な
ど、さまざまな背景の人たちを受け入
れてきています。参加者は何を求めて
読書会に来られているのか、自分もそ
の中に身を置きながら考えています。



さとう ゆき
佐藤 悠希さん

地域学部地域学科 地域創造コース3年



研究テーマ

おばあちゃんたちの
暮らしに元気を与える朝市

地元の鳥取市布勢で長く開かれて
いる朝市に通っています。毎週水曜
日と日曜日に開かれていて、地区内の
70~80代のおばあちゃんたちが自分
の畑で採れた野菜を出していますが、
私が興味を持っているのは朝市そのも
のというよりも、終わった後に開かれる
おばあちゃんたちの井戸端会議です。
お客さんがいなくなったら早々に近く
の小屋へ引き上げて、にぎやかなお
しゃべりが始まります。でも、「家では
若い人たちと時間が合わないから全
然話さない」というおばあちゃんも
いて、私も、ここではよく話すけど、別の
場所ではほとんど話さないというこ
とがあるなと気が付きました。おばあ
ちゃんたちの暮らしと朝市の関係を、通
い続ける中で感じたいと思っています。



まどの かい
眞殿 海さん

地域学部地域学科 地域創造コース3年



研究テーマ

ワクワクと胸躍る感覚
祭りのある生活を考える

地元は兵庫県姫路市香寺町にある
集落で、毎年、豊稷祭が行われてい
ます。祭りが近くなると、子どもたちが
太鼓の練習に出掛けたり、大人たち
が屋台の準備を始めたりと、地域全体
がざわつき始めます。夜な夜な響く太
鼓の音と、どこか楽しそうに忙しくし
ている大人たち。当日もにぎやかで好き
ですが、祭り前の「あ、そろそろ祭りだ」
という雰囲気、胸をワクワクさせてい
ました。高校や大学の友達と話す中
で、暮らしの中にそういう感覚がある
のは珍しいことなんだと知りました。
地元の人たちに話を聞いたり、新たな
視点で祭り前の雰囲気を味わったりし
て、祭りが自分にとって、地域にとっ
てどんな存在なのか、改めて考えてみ
たいと思っています。

※撮影時のみマスクを外しています。

私たちの 研究室



地域学部地域学科 地域創造コース

村田研究室

担当教員 村田 周祐 教授

地域の人々と共に過ごし、暮らしに思いをはせる



研究室の毎年恒例行事「田植え」

＼直近5年以内の/ 卒業生の主な進路

ニプロ 松山株式会社、香美町役場、
岐阜県庁、総合食品商社 中村角株式
会社、株式会社ウッズカンパニー、
タルマーリー

村田研究室が扱うのは、人々の普通の生活。日々の暮らしの中に、
人々が“無事に”“より豊かに”と築いてきたその土地なりの工夫や知
恵がある。学生たちは、日本民俗学の系譜に連なる社会学「生活論」
に基づき、調査地の住民たちと共に過ごして、その土地のありようや
これからの思いをはせる。

村田教授は自身の研究で、アフリカ・ガーナの農村、千葉県鴨川
市の漁村、鳥取県智頭町の林業地など、さまざまな土地に滞在し、
一緒に作業しながら暮らしを見つめ続けている。そんな村田教授は、
学生たちにまず「何が好きなの？何を大切にしたいの？」と尋ねると
いう。学生たちはその答えを一生懸命に探し、自分の生まれ育った
村や、趣味を通じた集まり、地域の憩いの場など、多様なテーマに
たどり着く。そして、それぞれの調査地に出向き、人と出会って話し、
自分の身体で体験して感じたことを書き綴っていく。「ありのままの
生活を書くことは、結果として自分自身を振り返ることになります。
そこにある暮らしに飛び込み、過ごしていく中で変わっていく自分に
気付く。そういう体験をしてほしい」。自主性を尊重された環境で、
自分の考えをじっくりと醸成させていける研究室だ。

CHECK THIS OUT!

鳥大生の活躍を紹介します

体育会弓道部

トリカツ!



※撮影時のみマスクを外しています。

心と技を磨き、弓道の真髄を目指す!

仲間を信じ、力を合わせて
中国ブロックの頂点に!

今年4月、鳥根県出雲市で開催された第54回中国学生弓道競技大会において本学体育会弓道部の男子団体チームが4年ぶり5回目の優勝に輝いたという、うれしい知らせが舞い込んだ。それだけでなく、男子個人では竹平和生さん(農学部2年)が準優勝、大会の「優秀射手」にも選ばれたというからすごい。

主将の木挽哲星さん(工学部3年)は、「弓道は個人競技だけど、誰かの調子が悪かったら別のメンバーが補うといった形で、選手全員のチームワークで得られた勝利です。後輩たちにはいい姿を見せられて良かった」と、快挙の喜びを口にしました。昨年度の同大会はコロナ禍により中止されたため2年ぶりの開催であり、しっかりとした感染防止対策の下、各校が一堂に会して競技できたことも大きな感動だったようだ。

部活動が思うようにできない苦しい日々もあった。それでも気持ちを強く保ち、大会前は「毎日必ず弓を引く」「リラックスして平常心を保つ」「最初の1本を大事に」など部員それぞれが目標を掲げ、コツコツと稽古に励んできたという。

心技の追求あってこそ強さ

週4日、キャンパス内の道場で部活動を行っている。張り詰めた空気の中、28m先の的を見つめ、力強く弓を引く。心身が一つになったところで矢を放つ。「タン!」と小気味よい音を立て、矢が的に当たる瞬間は実に爽快だ。

試合は的中数で勝敗が決まるが、弓道は矢を当てるだけが全てではない。一連の基本動作や姿勢を正しく行い、礼節を重んじ、その修練の過程で自分の心を磨くことが最も大切なこと。「弓を引く過程を研究することにはまっている」的中数よりも射法や射形の美しさを評価されることのほうがうれしい」と、武道ならではの深い魅力にのめり込んでいる部員もいる。

「部活動中は上級生が後輩に射法を指導したり、お互いに姿勢をチェックし合ったりと、部員同士で教え合う。だから、気軽に話せる雰囲気づくりが心掛けています」と木挽さん。「1、2年生はすごく練習熱心で、弓道にしっかり向き合っている人が多い。この熱意はきつと、次の大会にもいい影響を及ぼすはず」と期待する。和気あいあいと弓道を楽しみながらも、その真髄に少しでも近づこうと精進する若き射手らの真剣な眼差しが頼もしい。

第54回中国学生弓道競技大会 男子団体 優勝

久しぶりに各大学が顔を合わせての大会で、緊張のせいか、予選の1立目は普段の6割しか力が出せず…。しかし気持ちを切り替えて臨んだ2、3立目は復調、決勝進出を果たしました。

決勝は6校の総当たり戦。3試合目までは僅差を制して順調に勝ちを重ね、迎えた4試合目の相手は強豪・岡山商科大学。全体の中は同数だったので、6人の1射目的的中数を比べ、わずかに1本差で惜敗。非常に悔しい戦いでした。最後は、3勝1敗同士で並ぶ岡山理科大学との大一番。17対16と1本差で勝利して、4勝1敗という成績で優勝することができました!

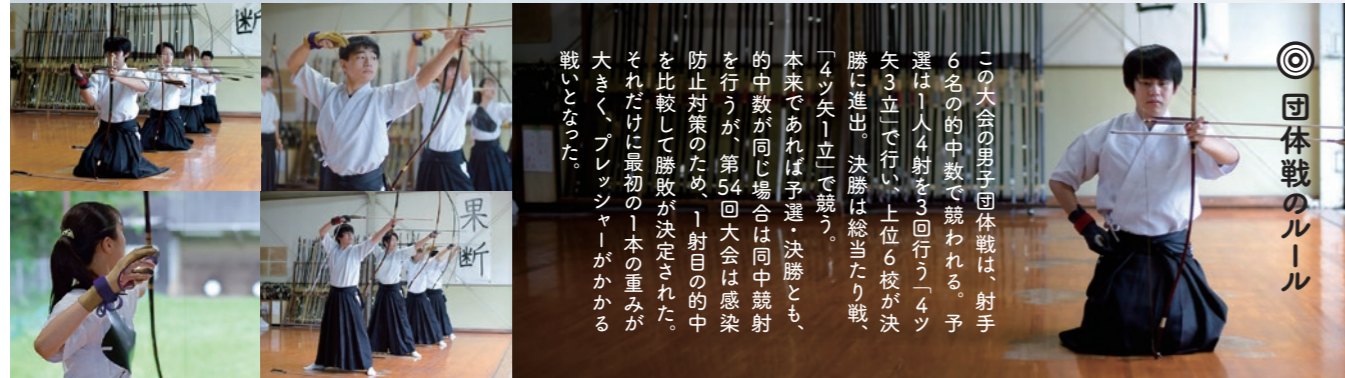
2年 竹平和生さん 男子個人 準優勝



約30名で争った個人決勝は、外したらそこで終わりという「射詰(いづめ)」での戦いでした。4射連続での中! 3名が残った5射目からは一回り小さい八寸の(直径約24cm)に。2射的中、3射目で外したものの、グッと集中できたことが勝因です。

◎ 団体戦のルール

この大会の男子団体戦は、射手6名の中数で競われる。予選は1人4射を3回行う「4ツ矢3立」で行い、上位6校が決勝に進出。決勝は総当たり戦「4ツ矢1立」で競う。本来であれば予選・決勝とも、的中数が同じ場合は同中競争を行うが、第54回大会は感染防止対策のため、1射目的的中を比較して勝敗が決定された。それだけに最初の1本の重みが大きく、プレッシャーがかかる戦いとなった。



新任教員紹介

MEET OUR NEW TEACHERS



鳥取大学着任日：2021年4月1日

地域学部地域学科 人間形成コース

お よん ほ
呉 永 鎬 准教授
専門 教育社会学 / 教育学
趣味 ピアノ

「共に生きる」——そのあり方を問い考える

私は、東京で生まれ育った在日朝鮮人3世です。祖父と祖母が日本の植民地であった朝鮮半島から日本に渡り、父と母も日本で生まれました。幼稚園から大学まで在日朝鮮人が通う朝鮮学校で学び、東京学芸大学、一橋大学の大学院を修了しました。

前に歩みを止めても、社会は何も変わりません。共生社会を築いていくためにはどうすれば良いのか。このことは社会の担い手たる私たち一人一人が、遠い世界のこのととしてではなく、足元から考えていかなければならない問題なのです。

私はそのあり方を、学生の皆さんと考えていきたいと思っています。その際、大切にしたいのは、平易な「正解」を求めているのではなく、意味のある「問い」を立てるという姿勢です。学び問う場である大学で、かけがえのない多くのことを経験してほしいと思います。

私の問題関心は、国籍や民族、出身地、宗教、セクシュアリティ、障害など、さまざまに異なる人々が平等に生きることが出来る社会をどのように築いていけるか、というところにあります。マイノリティの排除や社会の分断が、弱まるどころか強まっているとさえ言われる今日、この問いに挑むことには、時に絶望感を覚えさせるものでもあります。しかしその絶望を



鳥取大学着任日：2021年4月1日

地域学部地域学科 人間形成コース

あおやま さとし
青山 聡 講師
専門 英語教育学 / 第二言語習得 / 応用言語学
趣味 掃除 / スニーカーを愛(め)でること

英語指導もスニーカーもメンテナンスが大事

昨年度まで17年間、岡山県の公立高校で教諭として英語を指導していました。自分が英語を教える立場から、英語を教える立場の人を教える立場になったということになりますでしょうか(ややこしいですね)。ということで、私の専門は英語教育学です。

英語に限らず言語指導では、唯一無二のベストな指導法などは存在しません。目の前にいる児童・生徒に適したベターな指導法を、常に模索し続ける必要があるのです。そのためには学生の皆さんには、英語教育に関する専門的な知識を蓄えるだけでなく、常に知識をアップデートしたり、今の自分の指導法が適切かどうかを検証したりする、いわばメンテナンス能力を身に付けてもらいたいと考えています。私の趣味はスニーカー収集なのですが、スニーカーも日頃からメンテナンスをしてやらないと、数年で加水分解を起こしてダメになると同じですね(笑)。

これまで鳥取には、学部生の頃、数回仲間と砂丘付近を訪れたことがある程度です。鳥取市民になって数カ月がたつのですが(7月9日現在)、新型コロナのこともあり、観光らしい観光ができていません。もう少し落ち着いたら、いろいろな場所にお気に入りのスニーカーを履いて行ってみたいと思っています。

新任教員紹介

MEET OUR NEW TEACHERS



鳥取大学着任日：2021年4月1日

医学部医学科 脳神経医科学講座

おおだち ひろあき
大立 博昭 助教
専門 児童思春期精神医学
趣味 子どもとポケモンカードで遊ぶこと

摩訶不思議な子どものこころの探求

私は学生の頃から精神医学に興味を持ち、母校の精神科に入局しました。特に、子どものこころを扱う「児童精神科」という一筋縄ではいかない不思議な世界に魅了され、この道を専門にしました。一旦大学を離れ、子ども病院にて幼少期からのさまざまな生きづらさを抱えたお子さんの治療に従事しました。私が学んだことは、どんなに逆境的な環境で育った子どもたちも、適切な治療環境で大きく成長するという事です。「治療」だけでなく、子どもたちの「成長」を見守ることができるのが児童精神科の醍醐味であると感じます。

目の当たりにします。その背景として、子どもたちの生活に困難さがあり、結果としてゲームや動画に癒しを求める傾向を感じました。ですから、一概に「ゲームが悪い!」と決めつけるのではなく、「ゲームの利点と注意点をバランスよく治療の場で伝えられるプログラムの作成が必要と感じ、現在取り組んでおります。

私は随分と回り道をして鳥取大学に入学し、やりたいことを見つけてきました。人生に無駄はありません。大学生活でサークルや海外旅行など数多く経験することが必ずご自身の将来に役立つはずです!



鳥取大学着任日：2021年4月1日

医学部医学科 脳神経医科学講座

おおた みつえ
太田 三恵 助教
専門 精神科 / 精神薬理学
趣味 読書 / ゴルフ

鳥取県でこれからも医師として成長したい

令和3年4月1日より、鳥取大学医学部医学科脳神経医科学講座精神行動医学分野の助教に着任いたしました。出身は兵庫県香美町で、幼い頃より鳥取市は生活圏でありました。平成22年に藤田医科大学を卒業後、後期研修より県内の倉吉病院精神科へ就職し、平成29年に鳥取大学医学部精神科に医員として採用していただきました。

精神科は心と脳を診療の対象とする科です。心の働きは目で見えず、科学的に解明されていない部分が多いため診断や治療の標準化が難しい診療科とも言われていますが、日々自身の知識や経験を総動員し、想像力を働かせ治療にあたることで患者様が私達の予想を超える回復をされることも多く、医師として非常にやりがいのある科だと感じております。

医師生活のほとんどを臨床中心で過ごしてきました。現在、母乳栄養が児の神経発達に与える影響についての研究を進めています。将来は、自閉症スペクトラム障害の感覚過敏やコミュニケーション障害の緩和や予防ができる薬剤の開発の一端を担えればと考えております。

鳥取大学の学生さんは真面目で質問も積極的であり、探究心の強い学生さんが多い印象です。講義の後のディスカッションをいつも楽しみにしており、学生さんと一緒に私も教員として成長していきたいと思っています。

学生生活支援物資の受贈式を開催

2021.6.30

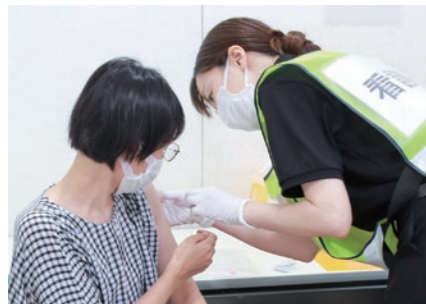


「県内大学生の生活支援に貢献する取組み」として、県内JA（JA鳥取いなば様・JA鳥取中央様・JA鳥取西部様）およびJA共済連鳥取様から、本学学生へ鳥取県産米「星空舞」（2kg 1,000袋）が寄贈されることとなり、目録の受贈式が行われました。

受贈式では、目録贈呈の後、中島学長からJA鳥取いなば代表理事組合長ならびにJA共済連鳥取運営委員会会長の影井克博様へ感謝状が贈られ、中島学長からは、「学生の送りやアルバイト収入が減少している中で、学生に対する直接支援となり大変ありがたい。大学としても地域の温かい気持ちを受け止め、教育・研究活動に一層励みたい」とお礼の言葉が述べられました。

新型コロナワクチン職域接種を実施

2021.9.24



鳥取・米子両キャンパスにおいて、本学学生、教職員を対象に新型コロナワクチンの職域接種（大学拠点接種）を行いました。1回目を7月20日～8月1日（鳥取キャンパス）、8月10日～8月13日、8月24日～8月27日（米子キャンパス）に実施し、2回目を8月17日～8月29日（鳥取キャンパス）、9月7日～9月10日、9月21日～9月24日（米子キャンパス）に実施しました。本学学生の約65.2%が2回のワクチン接種を終えました。

接種を受けた学生からは、「学内で接種してもらえてありがたい」、「ワクチン接種が進んで、大学に活気が戻ってほしい」などの声が聞かれました。

WHAT'S NEW?

大学の動き

在学生の活躍や大学の取り組みなど、鳥取大学の最新情報をご紹介します。

鳥取県と3つの連携協定を締結

2021.7.20



令和3年7月20日（火）、鳥取県立図書館大研修室において、鳥取県との連携協定締結式が開催されました。式には平井伸治鳥取県知事、中島学長、尾崎医学部副学部長、前垣医学部教授、梶谷医学部助教が出席しました（尾崎副学部長、前垣教授、梶谷助教はオンラインにて参加）。

式では、「公衆衛生行政の体制強化に関する連携」「障がい児医療の体制強化に関する連携」「災害派遣精神医療チーム（鳥取県DPAT先遣隊）の派遣」の、3つの連携協定が締結されました。これにより、行政との連携をさらに深めつつ人材育成を図り、公衆衛生や障がい児医療および災害時医療の体制充実を図ることが期待されます。

認知のゆがみをキュラクター化した「ユガミン」

豊かな教養と幅広い視野を備えた
素敵な大人になるための
「**全学共通科目**」を
ピックアップしてご紹介します。

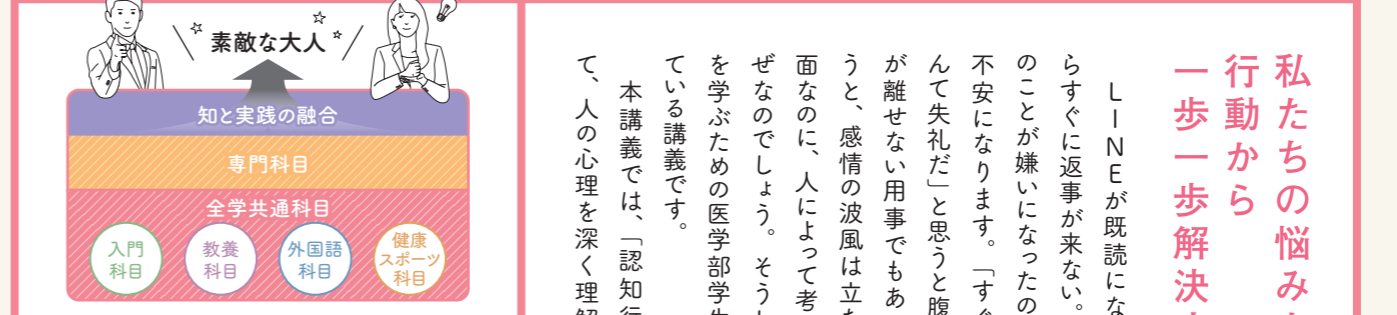
**現代社会で
生きる力を磨く**

担当教員

たけだ しんや
竹田 伸也 教授
大学院医学系研究科
臨床心理学専攻

教養科目 **発達心理学**

くよくよ考えてしまう。自信をもって行動できない。そうした考えや行動が起こるカラクリがわかると、対人援助や自分のストレスケアなど、私たちの暮らしのさまざまな場面で応用することができます。そうした「生きた学び」を大切にしたい講義です。



受講した学生の声

はしだ ななこ
橋田 菜々子 さん
医学部保健学科看護学専攻1年

**私たちの悩みを考え
一歩一歩解決する**

LINEが既読になったのに、相手からすぐに返事が来ない。こんなとき、「私のが嫌になったのかも」と考えると不安になります。「すぐに返事しないなんて失礼だ」と思うと腹が立ちます。「手が離せない用事でもあるんだろう」と思うのと、感情の波風は立ちません。同じ場面なのに、人によって考えが異なるのはなぜなのでしょう。そうした「ヒトのなぜ」を学ぶための医学部学生を対象に開講している講義です。

● この授業を選んだ理由は？
この講義では、自らで考え行動する方法を学びます。また、対人援助者として役立つスキルの習得を目標としており、対人援助者を目指すうえで有意義だと思い受講しました。

● 授業を受けた感想は？
「認知行動療法」が印象に残っています。臨床での会話や身近な例を基に進むため、講義内容に魅了されます。また、「正解は一つでない」と強調してくださるので、自由に考える事ができます。講義の終盤では、認知行動療法を実際に試してみるため、学んだことを発揮できると感じました。

す。認知行動療法とは、認知（物事の捉え方）と行動に働きかけて、問題解決をはかる心理療法です。なぜ、認知行動療法を学んでほしいか。それは、医学部で学ぶ皆さんに、一歩先行く臨床家や研究者になつてほしいから。そして、自分を大切にできる大人になつてほしいからです。

ところで、上の図には8匹の「ユガミン」がいます。冒頭でお話した、同じ場面でも人によって考えが違ふ理由。それは、心の中に飼っているユガミン（考え方の癖）が、人それぞれ違うからです。こんなふうに、考えのカラクリがわかると、マイナス思考と距離を置いて自分の心をケアしあげられます。ストレスフルな時代を生き抜く強い味方「認知行動療法」を、講義を通して手に入れましょう。

Many thanks

鳥取大学創立70周年記念事業募金への皆様方のご支援に心よりお礼申し上げます。



鳥取大学創立70周年記念事業の実施にあたり、皆様から予想を上回るご寄附をいただきましたことに、心より感謝申し上げます。

皆様からの温かいご支援のお陰をもちまして、記念式典、記念講演会及び記念祝賀会を挙げることに、記念酒の製造や記念誌の発刊などの事業も実施し、70周年記念事業のすべてを終えることができました。

ご寄附を賜りました全ての皆様に重ねまして御礼申し上げます。



鳥取大学創立70周年記念事業
委員長(周年事業担当副学長) 山口 武視



たくさんのご支援ありがとうございました。

学生支援のための「みらい基金」「修学支援金」につきましては、引き続きご寄付をお願いしておりますので、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

みらい基金

本学の基本理念に基づく目標の達成のために助成し、もって本学の振興に資することを目的としています。

- 【教育研究支援事業】教育研究の設備整備、高度化の支援などを行います。
- 【学生支援事業】優秀な学生への奨学金、課外活動の支援などを行います。
- 【国際交流支援事業】本学学生の留学、外国人留学生の修学、学術交流の活性化の支援などを行います。
- 【地域貢献支援事業】地域との連携推進、産官学の連携強化の支援などを行います。

修学支援事業基金(緊急給付型支援金を含みます)

経済的理由により修学が困難な学生を支援することを目的としています。

- 【授業料等免除事業】授業料、入学金又は寄宿料を免除する支援を行います。
- 【奨学金事業】学資を給付又は貸与する支援を行います。(鳥取大学とりん奨学金)
- 【留学支援事業】海外への留学に係る費用を支援します。
- 【TA・RA事業】学生を教育研究に係る業務に雇用するために係る経費を支援します。

ご寄付に関するお問い合わせ

国立大学法人 鳥取大学 総務企画部 総務企画課
〒680-8550 鳥取県鳥取市湖山町南4-101 Tel 0857-31-5006

★詳しくは・・・

鳥取大学の基金



測る、創る、診る

～技術で地域を支えます～

鳥取・倉吉・米子を拠点に
測量・調査・設計から維持管理まで



西谷技術コンサルタント株式会社
Nishitani Engineering Consultant Co., Ltd.

編集後記

EDITOR'S NOTE

本号では「誰もが輝くキャンパスを目指して」と題して、ダイバシティーキャンパス推進室を特集しました。細井室長をはじめとするダイバシティーキャンパス推進室員の皆さんが、鳥取大学を性別、国籍、人種、宗教などの違いを問わず、すべての人が自分の力を発揮できる環境にしていこうと様々な活動に取り組まれているのがとても印象的でした。学生スタッフの皆さんも熱心に活動に取り組んでおり、取材後も今年の学生スタッフの活動テーマである「生理」について、学生教職員に向けて研修動画を配信していました。教職員一同、学生と協力しながら今後もより良いキャンパスづくりに励んでまいります。

また、本号から、令和3年度に本学へ着任しました新任教員の紹介を行ってまいります。毎号4名もしくは3名の先生にご登場いただき予定になっておりますので、楽しみにしていただけたらと思います。

今回も感染症対策に万全を期して取材や撮影、編集作業を行いました。より良い広報誌作成のためアンケートにご協力いただけましたら幸いです。最後までお読みいただきありがとうございます。

Circle Activities

医学部サーフィン部は現在、部員48人で活動しています。ノリのいい部員が多く、活気のある部活です。活動に決まった曜日・時間などはなく、海に波のある日に行きたい部員がサーフィンをしに行くという自由なスタイルで活動しています。朝のほうがいい波が起ることが多いので、早朝からサーフィンをして、大学で勉強をし、夕方はバイトをするという生活をしている部員もいます。早寝早起きに加えて運動もできるので、とても充実した一日になります。

主に、全日本医科歯科学生サーフィン選手権大会と鳥大杯の2大会を目指して練習をしています。鳥大杯では、鳥取キャンパスのサーフィン部と合同で大会を開催し、OBさんも参加して大変盛り上がりがあります。新型コロナウイルス感染症が終息し



部長
ほんだ ひろき
本田 敬騎さん
医学部生命科学科 3年

たら、ビーチクリーンやサーフトリップも企画したいと考えています。サーフは自然相手のスポーツなので、毎回環境が変わります。全く同じ波が起きることはなく、繰り返し練習がなかなかできないのが難しいところです。さらに、辛抱強く練習しないと上達できません。しかし、その先に味わえる、大自然に溶け込んで波と一体になって疾走する、あのスピード感はとても魅力的です。東京オリンピックでは正式種目となり、興味を持たれた方も多いためではないでしょうか。鳥取県は海が近くにあるというサーフィンにとっていい環境なので、これを機会にぜひ経験してみてください！



学生広報スタッフがインタビュー!!
サークル紹介
医学部サーフィン部



サイエンス・アカデミーのご案内

要予約 受講料無料

日時 毎月第2・第4土曜日 10:30~12:00

お問い合わせ 鳥取大学地域価値創造研究教育機構
地域連携推進室 TEL 0857-31-6777

会場

鳥取県立図書館 2階 大研修室
(鳥取市尚徳町101)

LIVE(●●)

米子市立図書館、倉吉市立図書館、琴浦町立図書館、加藤文太郎記念図書館、大山町立図書館*、南部町立図書館*でライブ中継による聴講ができます。
※印の図書館は、第4土曜日のみ

zoomを利用してご自宅でも視聴できます。

- 事前申し込み制です!開催の前の月から受付を開始いたします。申し込みの締め切りは開催日の前日正午です。ただし、満席の場合はお断りすることもありますのでお早めにお申込みください。
- キャンセルされる場合は前日の正午までにご連絡をお願いいたします。
- コロナウイルス感染状況により、中止または延期、開催方法を変更する場合がございます。

受講のお申し込みはこちらから



- 発熱やせきなど体調に不良のある場合はご遠慮ください。
- マスク着用と手指消毒にご協力ください。

- | 日 | テーマ/講師 |
|--------|---|
| 11/27± | グローバル時代における「地域」の可能性
-実践教育の観点から 地域学部地域学科 講師
アレクサンダー・ギンナン |
| 12/11± | 地震のしくみと地震の備え
工学部社会システム土木系学科 准教授
野口 竜也 |
| 1/8± | アートが彩る地域医療
医学部医学科 助教
紙本 美菜子 |
| 1/22± | 認知機能の低下を防ぐことはできるのか?
医学部保健学科 助教
河月 稔 |



読者アンケートにご協力いただいた方へ

プレゼントが当たる!

今後のよりよい誌面作りのために、皆様からのご意見やご要望をお待ちしています。アンケートにご協力いただいた方の中から抽選で10名様にプレゼントを進呈いたします。



A4
トートバッグ

合計
10名様

アンケートのご回答はこちらから

プレゼント応募締切 | 1/31(月)

※ご記入いただいた個人情報はプレゼントの発送以外には使用いたしません。また、当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。



鳥取大学の をつぶやいています! /

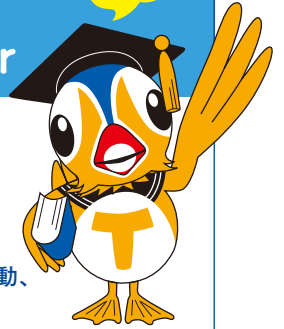
鳥取大学公式 Facebook & twitter

@toririn

@tottori_univ

とりりんが大学のイベント情報、学生活動、
キャンパスの様子などを随時発信中!

フォロー
してる



匠の業×IT技術

GOODHILL 株式会社

<https://goodhill.co.jp>



あなたのスマホが通帳に

TOTTORI BANK 鳥取銀行

とりぎん アプリ

「残高照会」や「入出金明細照会」が、スマートフォンアプリでカンタン!

iOS 版



Android 版



情報通信の力で
安心・安全・快適な社会を
実現します

鳥取で、世界最先端の
ソフトウェア開発にチャレンジ!

鳥取西菱電機株式会社 とっとりせりょうでんき



OHTORI 大鳥機工株式会社

工作機械

繊維機械

ハードウェア

電子部品製造装置

鳥取市南栄町19番地
TEL0857-53-4611

風紋のバックナンバーは、こちらから
www.tottori-u.ac.jp/fumon

鳥取大学に関するお問い合わせ

- 入学試験 0857-31-5061
 - 研究・産官学連携 0857-31-5608
 - 公開講座・社会貢献 0857-31-6777
 - 学生・学生生活 0857-31-5053
 - 授業料納入 0857-31-5029
 - 学生就職支援 0857-31-5456
- その他はホームページ <https://www.tottori-u.ac.jp/ask/> をご覧ください



編集発行 / 広報委員会 広報誌編集専門委員会

2021年11月発行

會見 忠則 (委員長・農学部) 関 耕二 (地域学部) 西村 正広 (医学部) 塩崎 一郎 (工学部)
 辻 渉 (農学部) 滝波 稚子 (教育支援・国際交流推進機構) 保坂 理和子 (研究推進機構) 藏田 修一 (総務企画課)

〒680-8550 鳥取県鳥取市湖山町南4-101 TEL.0857-31-5006 FAX.0857-31-5018
[E-メール] toridai-kouhou@ml.adm.tottori-u.ac.jp [ホームページ] <https://www.tottori-u.ac.jp/>